全国学童保育連絡協議会

日本の学童ほいく 普及拡大ニュース

みんなで読もう！ 目標 3万4000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

2023年6月27日

元気が出るみんなの取り組みをご紹介

楽しく普及拡大

総会では、ほいく誌の定期購読を呼びかけています！

指導員会での読み合わせで、理解を深めています！

群馬県の取り組み

群馬県版普及拡大ニュースなどの取り組みで！

群馬県学童保育連絡協議会の活動として、この数年間、総会を迎えるたびに、より多くの方に定期購読を呼びかけることを提起し、県内の研究集会、代表者会議、他の会議等でも議題に取り上げてきました。しかし、「新型コロナウイルス感染症」拡大の影響もあり、呼びかける場も減少してしまい、購読部数減になっている厳しい状況が続いています。

県連協では、群馬版の普及拡大ニュース「月刊『日本の学童ほいく』を読んで」の発行や「ほいく誌担当者会議」を行うなどして、各地域の普及拡大の取り組みについての情報交換、モニター登録や「子どものひろば」への投稿などの呼びかけを行っています。コロナ禍では開催や活動がなかなかできませんでしたが、今後は定期的なニュースの発行や会議の開催をめざして普及拡大につなげたいと思います。

また、県の学童保育担当課に協力していただき、「放課後児童支援員認定資格研修」の会場では、ほいく誌のチラシを毎年配布してもらっています。そこでほいく誌のことを知り、毎年数冊ではありますが、「購読します」との連絡をいただいています。

学童保育をよりよいものにしていくために購読をすすめよう！

各地域での取り組みとしては、指導員会で印象に残った記事の読みあわせや「協議会だより」を確認したりしています。保護者の方々にも、すぐに全世帯購読は無理でも、入所して１年間は購読をお願いしたり、４月号は新１年生のおうちへプレゼントしている学童保育もあります。保護者会や懇談会の場、おたより等を通じて保護者にもほいく誌をお知らせし、普及拡大に取り組んでいます。今後も見本誌やチラシの活用、「普及の手引き」「普及拡大ニュース」も活用しながら、より多くの保護者・指導員・学童保育関係者の方々に購読してもらうように働きかけを続けていきたいと思います。

学童保育をよりよいものにしていくために、みんなでがんばっていきましょう。

日本の学童ほいく6月号

特集 共にたしかめあう 学童保育指導員の仕事

子どもにとって学童保育は、安心して安全に過ごせる生活の場であることが必要です。今回の特集では、学童保育での生活を支える指導員の仕事について、その実際の様子と、指導員の思い・保護者の願いを交流し、共に大切にしたいことをたしかめあいます。

日本の学童ほいく
みんなで読もう目標3万4000部
子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

全国学童保育連絡協議会
普及拡大ニュース
2023年6月27日

読者の声

埼玉県加須市●指導員から

2023年3月号の「出会い集い父母会」に書かれた「“学童父母パワー”の輪をこれからも！」を読みました。

私は月1回の保護者会（父母会）は保護者が負担に感じるものだろうな……と思っていましたが、今回この記事を読むことで、そうではないことに気づきました。

コロナ禍で保護者会が開催できず、集金のみとなっているときでも、私の勤める学童保育の保護者は、保護者同士で会話を楽しみ、話し終わると帰っていく姿をよく見かけていました。

このようにふれあえる場、保護者会、行事などが、これから少しずつ再開できればいいなと思うとともに、このような場をこれからも大切にしていきたいと思いました。

（『日本の学童ほいく』2023年6月号　読者のひろばより）

岩手県陸前高田市●保護者から

2023年3月号で「ようこそ！　鉱物の世界へ」が最終回とのことで筆を執りました。

小学2年生の娘は、保育園に通っていた頃から鉱物が好きでした。

「ダイヤモンド探し」と言っては砂に混じっている透明な石を集めていました。

小さなジッパーバッグを「ダイヤモンド入れ」にして毎日持っていっては、帰りに見せてくれました。

小学生になってからは、校庭の角にある「石公園」というあだ名のついた、大きな石がたくさんある場所に行っては、鉱物を探しているようです。とくに水晶や石英が好きなようです。

門馬綱一先生の連載は、鉱物についての説明を読むのをカラー写真で見るのもおもしろく、めずらしい鉱物をたくさん知ることができました。今後も鉱物図鑑を読んだり、科学館に行ったりして、娘と勉強をつづけたいです。

（『日本の学童ほいく』2023年6月号　読者のひろばより）

私と「ほ・い・く・誌」

読者リレー執筆・今月は宮崎県都城市から刀坂弘毅さん

私が施設長をしている学童保育は、2006年に委託事業としてスタートしました。それ以前は自主事業として少ない人数で細々と活動を続けていました。事業がスタートした当時、宮崎県は国の基準より大幅に少ない額の補助金での運営を現場に強いており、私たちもそれに気づかずに、なかばボランティアのような形で運営をしているクラブもありました。そのようななかで、ある日、隣県の鹿児島県での補助金の額を聞く機会があり、その差に愕然とし、宮崎県に抗議をした際に門前払いされたことが、宮崎県の連絡協議会を作るきっかけとなりました。宮崎県や都城市に連絡協議会が発足し、全国の連絡協議会と交流が始まったことがきっかけで、今まで知りえなかった情報が次々と入ってくるようになり、県との交渉や現場の環境整備においてよい方向に進んでいきました。ほかにも、団体をつくったことで市内の他クラブとの交流が生まれ、毎年2回、長期休みに3～5クラブが参加してクラブ対抗のドッジボール大会を開催しています。また、全国学童保育連絡協議会が発行している『日本の学童ほいく』を通じて他県、他クラブの様子や国の動向などの情報を知ることができ、定期購読で学童保育職員が手に取るようになってからは、活動の視野が広まったように感じます。他所の活動や国等の大きな流れを知ることの重要性を感じているところです。

編集・発行　全国学童保育連絡協議会　〒113-0033 東京都文京区本郷2-26-13　TEL●03-3813-0477　FAX●03-3813-0765
E-mail●zghrk@xui.biglobe.ne.jp　http://www2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou